

「計画」

米原中学校

令和8年度 我が校の学び力向上策

【**県目標**】 第Ⅲ期学び力向上滋賀プラン
 夢と生きる力を育むために、子どもたちの主体的な活動を通して、学び力を高める。
 【**令和8年度取組の重点**】 子ども一人ひとりの「ワクワク」する学びへ
 ○発達の段階を踏まえた言語活動の充実
 ○1人1台端末等の効果的な活用
 ○自分に合った学び方を身に付ける指導の推進

【**市町の目標**】 自分の未来を自分でつかむ子どもの育成～子どもの自己肯定感と自己有用感を高める教育の推進
 ○人間力を育む教育の充実
 ○学ぶ意欲を高め確かな学力を育む教育の充実
 ○地域の良さを生かした特色ある教育の推進

【**学校の目標**】 MAICHU BASE 利他共生 ウェルビーイング
 ○自分で考え、判断、決定し、行動する力の育成 <自律>
 ○人を深く思いやる心をもつ生徒の育成 <仁愛>
 ○探究する心をもち、豊かに発想する力の育成 <創造>

【**現状と課題**】
 生徒の規範意識は全体的に高く、落ち着いて学校生活を送ることができている。一方で、学習面では受け身な姿勢が見られ、課題を自分事としてとらえる力を育てる必要がある。また、他者とのコミュニケーションに苦手意識をもつ生徒もあり、集団の中での関わりに困難を抱えている。今後は、主体的に学ぶための支援や、安心して交流できる環境づくりを通して、生徒一人ひとりの成長を促していきたい。

取組事項および評価指標

※評価指標には、目標値を記入してください。

(例) 県学びのアンケート(児童生徒)「わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、自分から取り組んでいたと思いますか」 **肯定的な回答80%以上 ← 目標値**

【 視点1 】 子どもたちが主体の授業づくり	
取組事項	評価指標
○生徒一人ひとりの特性に応じた「個別最適な学び」の在り方を探究する。課題の提示方法や学び方の選択、事前・事後の支援を工夫することで、すべての生徒が学習に主体的に参加し、「分かる」「できる」という実感を積み重ねられる授業づくりを目指す。 ○生徒の学びを促進するためにより効果的な1人1台端末の活用方法を検討する。	①各教科の授業評価の平均値 (学校評価：生徒アンケート 肯定的な回答80%以上) ②「私は、生徒の学びを促進するためにより効果的な1人1台端末の活用方法を検討した。」 (学校評価：職員アンケート 肯定的な回答80%以上)

【 視点2 】 学びを支え合う集団づくり	
取組事項	評価指標
○グループワークやペアワークなど、協働的な学びを実践する。 ○フェスタや生徒会活動、農園活動や収穫感謝祭など生徒が主体となって行う活動を重視し自己肯定感や自己有用感を高める。	①「私は、生徒の学びをより深めるために協働的な学習を実施した。」(学校評価：職員アンケート 肯定的な回答80%以上) ②「仲間と協力し合ってやり遂げることができた。」(学校評価：生徒アンケート 肯定的な回答80%以上)

【 視点3 】 協働して取り組む学校づくり	
取組事項	評価指標
○学校の教育目標を達成するために保護者やコミュニティスクール、地域学校協働本部事業と連携し、地域の人材等の活用を積極的に行う。 ②それぞれの職員が自分の得意分野を生かして活躍でき、全員が有機的につながる職場づくりを進めることで、組織全体の働きやすさを高め、結果として教育の質の向上につなげる。	①「学校は家庭や地域との連携を大切にしている」 (学校評価：保護者アンケート 肯定的な回答80%以上) ②「職員が協力して働き方を変えることができています」 (学校評価：教員アンケート 肯定的な回答80%以上)

◇「学び力向上策」の実効性を高めるために、職員全体で共通理解・共通実践し、検証・改善していく時期や手立て等

○NRTとNINOの結果を活用し、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導方法や学習方法の工夫を行う。(通年)
 ○地域人材や退職教員の協力を得てMGK(米原学習教室)を実施し、定期テスト直前対策学習会や入試直前対策講座によるフォローアップに努める。(8月～12月)
 ○ロイノートやGoogleクラスルームを活用し、授業や生徒会活動におけるグループワークやペアワークを推進する。(通年)
 ○生徒会ラブプロジェクト(福祉ボランティア活動)の継続・発展に努め、積極的なボランティア活動の機会を通して、地域や社会に貢献しようとする意識を育成する。(6月・7月)
 ○部活動の活動時間や担当を工夫し、授業準備や校務分掌に必要な時間を確保する。(通年)
 ○総合的な学習の時間を軸に、地域の方々の協力を得て農園を活用した教育活動を行い、その集大成として収穫感謝祭を開催する。(11月)